

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 殿

福岡県病虫害防除所長

平成 26 年度病虫害発生予察速報第 3 号について

このことについて、病虫害発生予察速報第 3 号（果樹カメムシ類）を発表したので送付します。

本年の果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ）の 4 月～7 月までの発生量は、チャバネアオカメムシの越冬量が過去 10 年で最も多かったことから多発生が予想されます。このため、平成 26 年 1 月 28 日に注意報を発表したところです。

果樹カメムシ類は、夜温の上昇に伴って活動が活発になります。5 月 3 半旬に入ってから夜温が平年より高くなっており、フェロモントラップの誘殺虫数も増加傾向にあることから、今後、果樹カメムシ類の活動が活発になることが予想されます。園内での飛来状況の把握に努め適期防除の徹底について指導願います。

速報 第 3 号

- 1 対象作物：果樹全般（ウメ、モモ、スモモ、ナシ、カキ、カンキツ等）
- 2 病虫害名：果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ）
- 3 発生地域：県下全域
- 4 発生量：5 月～7 月(前期)多発生
- 5 速報の根拠

(1) 5 月 1 半旬～5 月 4 半旬までの集合フェロモンによるチャバネアオカメムシの誘殺虫数は 2,393 頭であり、被害の多発した平成 14 年 (2,179 頭) 及び前年、前々年よりも多くなっている（前年 249 頭、前々年 1,650 頭）。特に 5 月 4 半旬には急激に増加した（表 1）。

表 1 集合フェロモンによるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移（筑紫野市）

調査時期		H14	H24	H25	H26
月	半旬				
5月	1	869	140	4	25
	2	29	593	74	102
	3	925	157	90	316
	4	356	760	81	1,950
1～4半旬計		2,179	1,650	249	2,393
	5	2,593	2,142	261	
	6	2,669	2,326	53	
5月計		9,620	7,768	812	

(2) 今後夜温が上昇し、果樹カメムシ類の活動に適した気象条件になることが予想される。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 発生は地域差が大きく、同一園内でも被害状況が異なるので、園内を注意して見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。
- (2) 果樹カメムシ類は広範囲に移動するため、薬剤散布は広域一斉防除の効果が高い。
- (3) 薬剤防除の際は、収穫前日数等農薬使用基準を遵守する。
- (4) 降雨があると薬剤の残効が短くなるので、散布間隔に注意する。
- (5) 今後の発生状況については、病害虫防除所ホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>) を参照する。